

YOODS・3D計測システムの活用法

- プロジェクターで部品などに光を当てる
- ↓
- カメラで撮影
- ↓
- 画像処理装置にデータを送信
- ↓
- 画像・数値データを表示
- 不良品検出などに活用



プロジェクターで光を当てて撮影した画像をもとに計測・検査する

例えば円筒形の部品だと直径や高さが測れ、不良品の発見やデータ管理に活用できる。カメラの角度やプロジェクターの

YOODS

画像処理システムの開発を手掛けるベンチャー企業、YOODS(ユーズ、山口市)は機械部品などの画像を撮影して精密な3次元計測ができる低価格システムを開発した。プロジェクターで光を当ててカメラで撮影した画像を100分の1ミリの精度で計測・検査できる。価格は1台200万円から。不良品検出などとして自動車部品メーカーなどの需要を開拓する。

システムは13種類のし
ま模様の光を部品に向け
て放つプロジェクターと
2台のカメラ、画像処理
装置で構成する。部品を
自動的に回転する台に乗

100分の1ミリ精度 車部品など開拓

せて光を当てて撮影する
と、画像処理装置が撮影
した模様を基に、3次元
の画像を作成する。
数値データをパソコン
画面に映し出すことがで
き、部品の画像を回転さ
せるなどして様々な方向
から見られる。マウスで
2点をクリックすると1
00分の1ミリ単位で間隔
が測れる。あらかじめ測
定したい箇所を指定して
おけば自動計測する。

位置は自由に変えられ
る。ベルトコンベヤーに
設置する場合は部品を一
つ一つカメラの前に止め
て撮影、計測する。
自動車部品メーカーの
ほか情報通信機器の部品
関連などの需要も見込ん
でいる。「海外の工場向
けに輸出も検討する」と
田寛社長という。

原田社長によると輸入
品などと同じような計測
システムはあるが「50
0万円以下のシステムは
ほとんどない」といい、
価格競争力を発揮でき
るとみている。輸入品が商

社などを經由するのに対
し、YOODSは流通経
費を極力省き、販売価格
を抑える。

品メーカーなどに営業を
して売り込み、顧客ごと
に仕様を修正するカスタ
マイズやメンテナンスも
対応する。初年度は20時

の販売を見込んでおり、
2年目以降は年間100
04年の設立で13年6月
期の売上高は約1億円。